

社会調査実習「最終報告会」

14日に現代社会学科の社会調査実習「最終報告会」があった。さいごの挨拶でも述べたように、「最終報告会」は今回が初めてである。これまでは秋の「中間報告会」だけだったが、先輩学生からの要望もあり、学生たちの奮闘により報告会が実現した。これから調査実習を始める2年生も参加して、201教室が一杯になった。

昨年度は学部長ということで、実習担当を免除してもらったが、3時間余りにわたり報告を聞いた。途中で休憩もあったが、硬い椅子に座って報告を聞くのも疲れるものだ。日ごろ講義を聞く学生のことが気になった。



秋の「中間報告会」では、**■ テーマの**

設定や調査方法などの報告が中心であるが、今回は実際に調査した結果が聞けて興味深かった。パワー



ポイントをうまく使った報告もあり、ビジュアルで説得的であった。学生も自信をもって報告していた。



挨拶などでも述べてきたが、この社会調査実習は現代社会学科の「看板講義」である。通常の講義に比べると「しんどい」講義だ。1年間かけて調査を実施して、その結果を分厚い報告書にまとめなくてはならない。選択科目なのに大半の学生が受講しており、自ら調査して結果をまとめる実習に興味があるようだ。「看板講義」が看板倒れにならないように、これまで以上に「指導」にも力を入れていきたい。

(2006年4月16日 記)